

## しあわせ家族計画 字幕

### Chapter3: Lunch Shop Opens

富士夫 : ええ、あと 15分ほどで開店しますので、もう少々お待ちください<sup>1</sup>  
あっ、いらっしやいませ  
いらっしやいませ

優子 : もう時間ないからさ、もう緊張してきちゃったよ<sup>2</sup>

義造 : おい、もういいから、外見て来いよ

恒子 : あんた、ほらあ  
すっごい

優子 : じゃ、あ開けるわよ

優子 : お待たせいたしました  
どうぞ、お入りください

義造 : はい、いらっしやい  
ええ、はい、いらっしやい  
和菓子、和菓子、やすい  
はい、こっちは和菓子ですよ  
和菓子どうぞ

優子 : ハンバーグ弁当、1つお願いします

はい、幕の内<sup>3</sup>、お願いします

本日<sup>4</sup>、これオススメになってますけども<sup>5</sup>

オススメ、1つお願いします

お味噌汁、サービスさせていただいてますけども、どうします

義造 : こんな出来合いのまずいもの<sup>6</sup>、食えるか<sup>7</sup>

優子 : お次の方

恒子 : こちらもいかがですか

優子 : お次の方、そうぞ

客 : ミックス弁当お願いします

優子 : はい、かしこまりました<sup>8</sup>

ミックス弁当おねがいします

女子1 : あたまいいんだね、川尻さん

英会話<sup>9</sup>、習ってる

陽子 : ううん、独学<sup>10</sup>

こうこうせい  
高校生になったら、アメリカに留学<sup>11</sup> したいなって

じょし  
女子2 : へええ、いいね

じょし  
女子1 : ね、今度<sup>こんど</sup>みんなで原宿<sup>はらじゆく</sup> 行<sup>い</sup>くんだけど、一緒<sup>いっしょ</sup>に来ない

ようこ  
陽子 : いいの

じょし  
女子2 : あ、ひろ瀬<sup>ひろ せ</sup>

じょし  
女子1 : 目<sup>め</sup>合<sup>あ</sup>わしちゃダメだよ<sup>13</sup>

あいつら、ヤバいから<sup>14</sup>

だん し  
男子 : ブス<sup>15</sup>

じょし  
女子2 : バッカみたい<sup>16</sup>

ひろ せ  
広瀬 : 自宅待機<sup>17</sup>

ぶ ちょう  
部長 : そう

ひろ せ  
広瀬 : しかし僕はこれまで、営業成績<sup>えいぎょうせいせき</sup> 18 で3位以下<sup>い い か</sup> 19 に落ちた事<sup>お</sup>、一度もないんですよ<sup>いち ど</sup>

ぶ ちょう  
部長 : それがどうしたって言うんだい<sup>20</sup>

かいしゃ はんだん  
会社の判断<sup>21</sup> なんだから、従<sup>したが</sup> ってもらうしかないんだ<sup>22</sup>

それじゃ

しながわ  
品川 : 君<sup>きみ</sup> 23 も営業<sup>えいぎょう</sup> 24 をやっていたから分かるだろうが、単<sup>たん</sup>に<sup>25</sup> 商品<sup>しょうひん</sup> を売るだけじゃダメなんだ<sup>26</sup>

そこにも書<sup>か</sup>いてあるが、情報<sup>じょうほう</sup> も売<sup>う</sup>っていかなきゃならん<sup>27</sup>

そうした消費者<sup>しょうひや</sup>のニーズに<sup>こた</sup> えられる<sup>28</sup> ような会社<sup>かいしゃ</sup> を作れば、確<sup>かく</sup>実<sup>じつ</sup>に利益<sup>り えき</sup> をあげられると思うんだ

ふ じ お  
富士夫 : なるほど

インターネットを、こうした形<sup>かたち</sup> で利用<sup>り よう</sup> するってのは、面白<sup>おもしろ</sup>いですね

しながわ  
品川 : どうかね

いっしょ しんがいはや つく  
一緒に新会社<sup>しんがいはや</sup> を作<sup>つく</sup> ってみないか

そしてぜひ、役員<sup>やくいん</sup> として参加<sup>さん か</sup> してくれないか

きみ どう き やまがたくん こえ  
君<sup>きみ</sup> と同期<sup>どう き</sup> 29 の山形君<sup>やまがたくん</sup> にも、声<sup>こえ</sup> をかけてあるんだ<sup>30</sup>

ふ じ お  
富士夫 : 役員<sup>やくいん</sup>、ですか

しながわ  
品川 : まあ、報酬<sup>ほうしゅう</sup> 31 は最初<sup>さいしよ</sup> から高額<sup>こうがく</sup> という訳<sup>わけ</sup> にはいかないが<sup>32</sup>

インセンティブシステム<sup>33</sup> をとるつもりなんだよ

ふ じ お  
富士夫 : インセンティブ

しながわ  
品川 : 資本金<sup>し ほんきん</sup> 34 を出<sup>だ</sup> してもらって代<sup>か</sup> わりに<sup>35</sup>、利益<sup>り えき</sup> を還元<sup>かんげん</sup> する<sup>36</sup> システムなんだよ

わる とうしょ わたし かぶ わり も  
悪いが当初は、私が株の6割を持っておきたい

きみ やまがたくん まん こと かんが  
で、君と山形君は、200万ずつという事になるが、まあ、考えてみてくれ

ふ じ お  
富士夫 : ええ

ゆう こ  
優子 : 450円いただきます

またお待ちしてます

どうもありがとうございましたあ

よしぞう  
義造 : やりやがったな<sup>37</sup>

ゆう こ  
優子 : なんで店の足、引っ張ってんのよ<sup>38</sup>

よしぞう  
義造 : これは、俺<sup>39</sup>の店なんだよ

ゆう こ  
優子 : 俺の店って何よ、あれだけ話し合いしたじゃないのよ

ふ じ お  
富士夫 : ただいま

ちよっとね相談がある、ちよっと相談がある

ゆう こ  
優子 : 今ちよっと忙しいから、後でね

ふ じ お  
富士夫 : いい話

よしぞう  
義造 : 哲

ゆう こ  
優子 : 哲男さん